

ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶ（A）は、かつ消えかつ（B）て、久しくとどまりたる（C）なし。世の中にある人と（D）と、またかくのじとじ。

（E）の都のうちに、^①棟を並べ、いらかを争へる、高き、^②卑しき、人の住まひは、世々を経て尽きせぬもの^甲なれど、これをまことかと尋ねれば、昔ありし家はまれ^乙なり。あるいは^③去年焼けて今年作れり。あるいは大家滅びて小家と^丙なる。住む人もこれに同じ。所も変はらず、人も多かれど、いにしへ見し人は、二、三十人が中に、わづかにひとりふたり^丁なり。朝に死に、夕べに生まるるならひ、ただ水のあわにぞ似たりける。

- ① 空欄A～Eに当てはまる言葉をすべてひらがなで答えよ。
- ② 二重線①～③の漢字の読みを答えよ。
- ③ 波線甲、乙、丙、丁の文法的意味をそれぞれ説明せよ。
- ④ 「似たりける。」とあるが、何が「水のあわ」に似ているのか説明せよ。

知らず、生まれ死ぬる人、いつかたより来たりて、いつかたへか去る。また知らず、仮の宿り、たがためにか心を悩まし、何によりてか目を喜ばしむる。その、あるじとすみかと、（A）を争ふさま、いはば 朝顔の露に異ならず。あるいは露落ちて花残れり。残るといへども朝日に枯れぬ。あるいは花しぼみて露なほ消えず。消えずといへどもタバを待つことなし。

⑤ 空欄Aに当てはまる言葉を漢字二字で答えよ。

⑥ 傍線部Ⅰで使われている表現技法は何か。

⑦ 傍線部Ⅱ「朝顔の露」とあるが、それぞれ何を指すか。

⑧ 傍線部Ⅲを現代語訳せよ。

⑨ 内容について正しいものを選べ。

ア：人はどこから生まれ、どこへ死んでいくのかを知ることができるので、人は死を恐れる必要はない。

イ：人は仮の住まいのために苦勞し、美しいものを求めて喜ぶが、それらは長く続くものではないと作者は考えている。

ウ：朝顔は露よりも長く咲き続けるため、人間の命よりも永遠の存在であることを示している。

エ：露も朝顔も必ず同時に消えることから、人と住まいも必ず同時に滅びることを表している。

① A::うたかた B::結び C::ためし D::すみか

② ①::むね ②::いやし ③::いぞ

③ 甲::断定の助動詞「なり」の已然形

乙::形容動詞「まれなり」の終止形

丙::ラ行四段活用の動詞「なる」の終止形

丁::断定の助動詞「なり」の終止形

④ 人が朝に死んで、夕方に死ぬ定めのこと。

⑤ A::無常

⑥ 倒置法

⑦ 朝顔↓すみか 露↓あるじ

⑧ ある場合には花はしぼんで露は依然消えない。

⑨
イ